

V．カリキュラムについて

1. カリキュラムポリシー

上智大学短期大学部に入学した者が、本学の学業を修めることにより、建学の精神やディプロマポリシーで定める人材となることができるよう構築された一連のプログラムをカリキュラムポリシーとして明示します。

本学で提供するカリキュラムは、学修の4つの観点「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」と到達目標に定義する諸要素を備えています。カリキュラム構成に示すとおり、多様な科目群により複数要素を補完しあう教育プログラムを構築することで、本学が定める要素を十分に修得することができます。

1. カリキュラムエッセンス

英語科では、「キリスト教ヒューマニズム」「英語発信力」「国際性」の《3つの視点》と、「教養力」「言語力」「専門力」の《3つの能力》の2つのカリキュラムエッセンスを尺度に精査された授業やプログラムを提供します。

また、個別の授業を、段階を追った重層的かつ領域横断的なプログラムとして統合・構成することで、国際社会に貢献しうる多様な人材を育成します。

《3つの視点》

(1) キリスト教ヒューマニズム

「人間教育」を掲げる本学は、キリスト教ヒューマニズムという視座から、言語、思想、文学、歴史、社会を考察し、その過程において「人間」への理解を涵養することにより、社会貢献の志を抱く人材を育成します。

(2) 英語発信力

「内容重視 (content based)」「自己発信 (self-expressive)」型の英語教育を通して英語の技能を向上させるとともに、言語の価値と運用の本質的意味を理解し、それを基礎に多様な分野の専門教育と人間形成をします。

(3) 国際性

言語教育を核として、歴史、文化、社会経済、国際情勢、地域福祉等、幅広い分野の専門教育を実施しています。さらに、地域活動の中での国際協力（サービ斯拉ーニング活動）や、短期留学プログラム、そして本学の持つ国際色豊かな教育資源を活用することにより、地域レベルまで国際化が進む社会を実感することができます。

《3つの能力》

(1) 教養力

善悪、美、愛、喜怒哀楽、勇気、胆力、宗教等、人や社会によって異なる信念や価値観を豊かに持つことです。さらに、自己と異なる考えを理解し、共感し、寄り添うことで他者や異文化間のギャップを埋めることができる感性を総じて教養力といいます。

(2) 言語力

異なる性質である「教養力」と「専門力」を媒介し、ヒューマニズムの核となるものが「言語」です。本学では、国際社会の共通言語として広く使われる英語を通して母語にも共通する「言語力」を修得するとともに、幅広い分野の専門知識と深い教養の涵養を目指します。

教養力と専門力そして言語力の3つの力を磨くことにより、上智の建学の精神を具現化できる人材を養成します。

(3) 専門力

すべての学問領域の知識を体系的に理解し、それを論理的に説明する能力です。語学、文学、哲学、修辞学、法律、経済、歴史、自然科学等、論理立てて継承していくことが可能な知識は、全て専門力といえます。

2. カリキュラムの科目群

本学の授業は、「英語科目」「教養科目」「基礎科目」「専門科目」の4つの科目群に分類されています。それぞれの科目分類の定義は以下のとおりです。

・英語科目

英語の各科目では、4技能（読む、書く、聞く、話す）を効果的に習得することができます。また、「英語スキルズ」や「TOEIC対策講座」では、状況や立場等の目的に応じた英語表現を、ペアワークやグループワーク等の実践演習により身につけることができます。

さらに、必修科目である「英語Ⅰ～Ⅳ」の講座では、地球市民として必要な素養を「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神に基づき、段階的に英語で学ぶことで国際社会への興味と理解を深めることができます。

・教養科目

教養科目は、心や感性を培い、多様な視点から物事の本質を理解し、広く社会と人間の本質を理解することを通して社会貢献の志を育むことを主たる目的とした科目群で構成されています。必修科目である本学特有の「人間学」科目では、キリスト教ヒューマニズムの視座をもって様々なテーマを考察し論じることで、高次の人間理解をめざします。この素養を礎として多様な学問や社会事象を考察することにより、それらの背景に隠れた新たな価値を発見し、これを通して自己認識・自己規定の新たな意味づけにつなげることができるはずです。

また、人間学以外の本科目群においても人間理解に着目し、とくに人間の行動を広義に理解することや考察の切り口となりうる科目分類と授業内容の精査を行っています。

・基礎科目

本学が定めるコース（※コース制度参照）の4領域のテーマを学ぶにあたり、前提となる知識や分野についての導入科目となりうる科目群を基礎科目として配置しています。

また、言語系の科目配置では、意思疎通の手段の幅を広げるだけでなく、複数言語に触れることで社会の多様性や共通性への感受・認識へと展開していくことを目的としています。

・専門科目

本学が定めるコース（※コース制度参照）の4領域のテーマに沿って得られた多様な知識を複合的に展開していくために必要な知識・分野を専門科目として配置しています。

また、セメスターごとに段階を踏む「ゼミナール」科目（※ゼミナール制度参照）では、アカデミックスキルの向上とともに、実社会でも通用しうる実践的な社会人基礎力を総合的に学び向上させることができます。

3. カリキュラム構成（標準配当）

標準配当表および開講科目表を参照してください。

4. コース制度

本学では、4つの学習コースを設けており、個々の学生が領域のテーマを探究するにあたって順序立てて学ぶ指標を示しています。コースを学習することで、それを軸とした考察視点を養うことができます。

（1）異文化理解コース

さまざまな国の文化や社会、考え方などについて学ぶコースです。

歴史学、教育学、法学といったさまざまな学問分野の視点から、日本や諸外国の制度や考え方を見ることによって、文化を複眼的に理解することができます。

（2）英米文学研究コース

英語圏の文学を通して様々な表現手法や思想等について学ぶコースです。

詩、劇、小説といったジャンル別に、愛、モラル、宗教などのテーマがどのように表現されているかを学ぶことによって、英語圏の文芸文化への理解を深めます。

（3）言語研究コース

ことばのしくみや使い方、バリエーション等について学ぶコースです。

英語と日本語の音、語、文、意味といった異なるレベルでの構造、会話の仕組み、ことばのバリエーション、ことばの習得、言語教育等について学ぶことによって、生きた言語への理解を深めることができます。

(4) 言語教育コース

理論と実践の双方向から、効果的に言語教育を行う力を養います。

子どもたちへの英語の教え方と、日本語を母語としない人たちへの日本語の教え方を理論と実践の両面から学ぶコースです。言語の習得、こどもの心理や発達、言語教育等に関する理論を学び、その知識を基に模擬授業を行うことによって、効果的な言語教育を行う力をつけることができます。

5. ゼミナール制度

本学では、4学期つまり4セメスター（2年間）で段階を踏んだゼミナール講座を設けています。

- (1) 第1セメスターに開講する「基礎ゼミナール」では、大学で学ぶにあたっての導入教育とともにキャリアパス設計に必要な演習等を行います。
- (2) 第2セメスターでは、「プレ・ゼミナール」を開講し、自身の研究テーマを設定し、それに基づく討議・演習を通して、研究手法や自己表現方法、論理構築手順等を学ぶことができます。
- (3) 第3セメスターと第4セメスターに開講される「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」では、自身のテーマをより深く研究していく過程で、情報収集や分析の手法、問題提起、論理構築、領域横断的視点、自己発信力等の素養を統合的に得ることができます。

6. インデペンデント・スタディ

指導教員の下、学生が独自に設定したテーマについて、主体的に調査・考察した成果を研究報告書としてまとめ、発表を行う自主的総合学習です。本プログラムは任意履修となりますが、ゼミナールやコース制度等で学んだテーマをさらに拡大・展開させたり、新たな智の領域に挑戦したいという学生の積極的な学習・研究意欲に発展的に応えるものです。

7. キャリア形成支援プログラム

本プログラムは、学生の多様な進路希望を後押しすることを目的とし、キャリアパスや就職、編入学に関するガイダンス、専門カウンセラーによる個別指導等の正課および支援プログラムが多面的に組み込まれています。これらのプログラムに主体的に参加することにより、社会基礎力としての内面的な成長とともに、編入学や就職等における実践的な知識を得ることができます。

8. 上智大学科目等履修制度の導入による単位認定制度

9学部29学科を擁する上智大学（4年制）で全学に開講されている科目を、本学の学生が履修することができる制度です。この制度では、セメスターごとに6単位、最大12単位を上限に履修することができます。修得した上智大学の単位は本学の単位として認定することができます。

この制度を活用することにより、本学で開講されていない領域や、多様な専門的学問領域をより深く探求することができます。また、この制度は、学習機会の拡充だけでなく、上智大学の学生・教職員とのふれあいの機会を相互に広げていくことも目的としています。

9. 短期留学プログラム

本学では、「海外短期語学講座」として短期留学プログラムを提供しています。本プログラムの参加者は、事前に「留学準備」科目を修め、派遣先の学校で所定の条件を満たすことにより4単位（「留学準備」2単位、「短期留学プログラム」2単位）を取得することができます。

「留学準備」科目では、本プログラムに参加する目的や、その経験をどのように活かしていくかを明確にしていくことで、学習効果を向上させることができます。また、各種ガイダンスやロールプレイ等により、留学先の文化や海外生活で必要となる知識、危機管理方法等を学ぶことができます。

さらに、参加者は、出発前と帰着後にTOEIC-IP（有料）を受験することで、留学による語学力向上の成果を客観指標で計ることができます。

カリキュラム マップ

3 つの視点

1

キリスト教
ヒューマニズム

「人間教育」を掲げる本学は、キリスト教ヒューマニズムという視座から、言語、思想、文学、歴史、社会を考察し、その過程において「人間」への理解を涵養することにより、社会貢献の志を抱く人材を育成します。

2

英語発信力



「内容重視(content based)」「自己発信(self-expressive)」型の英語教育を通して英語の技能を向上させるとともに、言語の価値と運用の本質的意味を理解し、それを基礎に多様な分野の専門教育と人間形成をします。

3

国際性



言語教育を核として、歴史、文化、社会経済、国際情勢、地域福祉等、幅広い分野の専門教育を実施しています。さらに、地域活動の中での国際協力(サービスマーケティング活動)や、短期留学プログラム、そして本学の持つ国際色豊かな教育資源を活用することにより、地域レベルまで国際化が進む社会を実感することができます。

3 つの能力

1 教養力

善悪、美、愛、喜怒哀楽、勇気、胆力、宗教等、人や社会によって異なる信念や価値観を豊かに持つことです。さらに、自己と異なる考えを理解し、共感し、寄り添うことで他者と異文化間のギャップを埋めることができる感性を総じて教養力といいます。

2 言語力

異なる性質である「教養力」と「専門力」を媒介し、ヒューマニズムの核となるものが「言語」です。本学では、国際社会の共通言語として広く使われる英語を通して母語にも共通する「言語力」を修得するとともに、幅広い分野の専門知識と深い教養の涵養を目指します。

3 専門力

すべての学問領域の知識を体系的に理解し、それを論理的に説明する能力です。語学、文学、哲学、修辭学、法律、経済、歴史、自然科学等、論理立てて継承していくことが可能な知識は、全て専門力といえます。

履修の流れ

教養科目群

多様な視点から広く社会と人間の本質を理解することを通して心や感性を培い、社会貢献の志を育むことができます。

人間学Ⅰ

人間学Ⅱ

教養科目

英語科目群

国際共通語としての英語を実践を通じて学び、コミュニケーション能力を育み、グローバル社会への興味と理解を深めることができます。

英語Ⅰ

英語Ⅱ

英語Ⅲ

英語Ⅳ

英語スキルズ

TOEIC
対策講座ⅠTOEIC
対策講座Ⅱ

基礎・専門科目群

アカデミックスキルの確立、社会人基礎力の向上と併せ、多様なテーマ、領域の知識を複合的かつ段階的に学ぶことができます。

基礎
ゼミナールプレ・
ゼミナール

ゼミナールⅠ

ゼミナールⅡ

基礎科目

異文化理解コース科目群

英米文学研究コース科目群

言語研究コース科目群

言語教育コース科目群

専門科目

インデペンデント・スタディ

1 年 生
2 年 生第一セメスター
(準備期)第二セメスター
(発展期)第三セメスター
(応用期)第四セメスター
(完成期)

3. 英語科 カリキュラムの特徴

本学のカリキュラムの科目群は、英語科目、教養科目、基礎科目、専門科目で構成されています。

「英語科に入ったのだから、英語の勉強だけをするものだと思っていた」等の声を新入生から聞くことがあります。それでは、「英語を学ぶ」とはどういうことなのでしょう。

言葉というものは、相手に何かを伝える、あるいは相手の言いたいことを理解するために使われます。

「英語を学ぶ」と言っても、学んだ英語で相手に「何を伝えるのか」「何を理解しようとするのか」という中身がなくては、本当の意味での「英語を使える」人間にはなりません。しかも、母語とは異なる言語を使う相手に、何かを伝えて理解してもらうこと、逆に相手のいうことを理解することは、とても大変なことなのです。単に文法や語彙が違うから、という問題ではありません。「異文化コミュニケーション」という言葉が示すように、異なる言語の使い手、つまり異なる文化の人々とコミュニケーションを行うためには、相手の文化や社会についても知る必要があります。

入学後、まず教養科目を履修することで視野を広げ、体系だった学問に触れながら論理的なもののとらえ方を身につけていきます。皆さんの多くにとっての母語は日本語でしょう。まず日本語でものを論理的に考え、説明する力を養うことが、英語を使いこなすためにも不可欠なのです。そのため、日本語で必要な情報を集め、論理的に整理して口頭で発表したり小論文を書いたりするためのアカデミック・スキルズを身につける「基礎ゼミナール」を1年次春学期に必修科目として受講します。また、同じく1年次に受講する必修科目の「人間学」では、本学の教育理念であるMen and Women for Others, with Others（他者のために、他者とともに）を実現するための学びがあります。

こうしてしっかりと基礎となる土台を作りながら、英語を学びます。英語の授業の時間が大切なことは言うまでもありませんし、英語だけでなくすべての授業は無遅刻・無欠席が当たり前です。しかし、英語力は授業だけでは決して身に付きません。各授業の予習・復習、課題などをしっかりこなす自宅学習が必須です。さらに学内ではパソコンを使ったe-learningシステム等、授業外で英語を学ぶさまざまな機会が提供されています。また、学生の皆さんはTOEICの目標値を決めてその達成に努めてください。教員もそれを支援していきます。英語力を身に付けるためには、こつこつと積み重ねる毎日の努力と、英語を使い英語により多く触れる自主性が鍵となります。

また、本学では英語力を身につける授業は英語科目に限定されているわけではありません。いくつかの専門科目やゼミナールは英語で行われています。それらの授業では、講義を英語で聞き、英語のテキストや資料を読み、英語で議論して、英語でレポートを書く、というように実際に英語を使って専門的なことを学んでいきます。泳ぎ方をいくら言葉で教わっても、実際に水に入ってみなければ泳げるようにはならないと同様に、英語についていくら学んでいても、自分が持っている知識を十分に活用しながら実際に英語を使ってみなければ、英語が使いこなせるようにはなりません。英語で授業を行う科目が専門科目として提供されている理由はここにあります。

専門科目は、「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育」という領域に括られており、それぞれの分野の入門的な「概論」と「各論」にあたる個々の講義が提供されています。全体像をまず把握してから個別のテーマを扱う「各論」に入るほうが理解を深めることができるので、「概論」は第二外国語などととともに、専門科目のなかの基礎科目として位置付けられています。ある領域に興味がある場合は、その領域の科目を集中して履修して卒業時に「コース修了証」を得ることもできますし、領域にこだわらずに自分の関心にしたがっていろいろな分野の科目を履修することもできます。

こうした学内での学びを、児童英語教育ボランティアや日本語教育支援ボランティアなどの地域活動に活かし、学外でのこうしたボランティア体験をさらに学びにフィードバックする活動が活発に行われています。こうした奉仕の体験を学びに活かす活動を、サービスラーニング活動といいます。サービスラーニング活動を通して、学生の皆さんは学んだことを実践し、他者とともに生きる市民社会の一員として成長する機会を地域社会からいただいているのです。

本学のカリキュラムの内容や目的をよく理解したうえで、バランスよく科目を履修し、ボランティア活動やさまざまな課外活動にも積極的に参加しながら、将来必要となる英語力や社会人力を養ってください。

科目履修やプログラム、ボランティア活動などについてわからないこともあるでしょう。それはごく当然のあたりまえのことです。アドバイザーとよく相談して、長期的な視野にたった履修・学生生活の計画を立てましょう。

4. 授業科目の構成

授業科目の内容は以下のように構成されています。

- (1) 英語科目
 - └ 必修科目
 - └ 選択必修科目
- (2) 教養科目
 - └ 必修科目（人間学）
 - └ 選択科目
- (3) 基礎科目
 - └ 選択科目
- (4) 専門科目
 - └ 必修科目（基礎ゼミナール、プレ・ゼミナール、ゼミナール）
 - └ 選択科目

必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目

選択必修科目 …… 指定された科目の中から選択して、所定の単位を必ず履修しなければならない科目

選択科目 …… 自由に選択して履修できる科目

5. 卒業に必要な科目・最低単位数

2年の修業年限を満たし、次の条件を満たすことにより、本学を卒業する資格が与えられます。

【13年次生以降】

【16年度以降】							
分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
必選別	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	10	6	2	12	8	28	66
合計	16		14		36		

【10～12年次生】

分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
必選別	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	8	6	4	12	8	28	66
合計	14		16		36		

6. 標準配当表

【13～14年次生】

【10 11年度】

区分		1 年次・春学期 第 1 セメスター (準備期)		1 年次・秋学期 第 2 セメスター (発展期)		2 年次・春学期 第 3 セメスター (応用期)		2 年次・秋学期 第 4 セメスター (完成期)	
英語科目	必修 (10単位)	英語Ⅰ TOEIC対策講座Ⅰ	2 1	英語Ⅱ TOEIC対策講座Ⅱ	2 1	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
	選択必修 (6 単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (2 単位)	人間学Ⅰ	2						
	選 択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎／専門科目	必修 (8単位)	基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選 択 (28単位)	選択科目 (28)							

【10～12年次生】

【10 12年度】

区分		1 年次・春学期 第 1 セメスター (準備期)		1 年次・秋学期 第 2 セメスター (発展期)		2 年次・春学期 第 3 セメスター (応用期)		2 年次・秋学期 第 4 セメスター (完成期)	
英語科目	必修 (8 単位)	英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
	選択必修 (6 単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (4 単位)	人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2				
	選 択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎／専門科目	必修 (8単位)	基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選 択 (28単位)	選択科目 (28)							

7. ナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

ナンバリング基本方針

↓ 科目の分野を表す (任意のアルファベット3文字)

AAA 1 1 1

↑ 100の位で科目のレベルを表す

科目レベルは以下の通りとなります。

100番台	初年次教育科目
200番台	学問の基礎的な概念や考え方を理解する科目、もしくは専門教育の基盤となる科目
300番台	専門教育の理解を深める科目、もしくは建学の精神を踏まえ実践する科目

アルファベットによる分野表記と分野名

分野別	分野名
ANT	Anthropology
ART	ART
BUS	Bussiness Management
CHN	Chinese
COM	Computer Studies
ECN	Economics
EDU	Education
ENG	English
FRN	French
GMN	German
HST	History
IDS	Interdisciplinary Studies
INT	International Studies
LAW	Law
LIT	Literature

分野別	分野名
LNG	Linguistics
MTH	Mathematics
MUS	Music
PED	Physical Education
PHL	Philosophy
POL	Political Science
PSY	Psychology
REL	Religious Studies
SCH	Studies in Christian Humanism
SEF	Special Education Fundamentals
SES	Special Education Seminar
SOC	Sociology
SPN	Spanish
SWF	Social Welfare

8. 履修上の注意

(1) 履修登録の上限

履修できる単位数の上限は1学期につき**24単位**です。

(2) 同一科目の重複履修

同一の授業科目は重複して履修することはできません。担当者が異なっても同じ科目名であれば、同一科目とみなされます。ただし、履修した科目が不合格で単位が修得できなかった場合は、もう一度履修することができます。

(例)「基礎英語スキルズ(リーディング)」の授業は春学期と秋学期で違う担当者 → 同じ科目名なので同一科目 → 春学期に単位が修得できた場合、秋学期は履修できない。

- 下記の科目は科目名が異なりますが、同一科目とみなされます。すでに単位を修得済みの場合、重複履修はできませんので注意すること。

【12年次生以前】

2012年度以前開講科目名	2013年度以降開講科目名
東洋研究A	東洋研究
東洋研究B	東洋研究

【10年次生以前】

2010年度以前開講科目名	2011年度以降開講科目名
情報概論	情報リテラシー演習
世界の教育	比較・国際教育学

(3) 人数制限科目

人数制限科目とは、履修する定員数が定められている科目のことです。開講科目表の備考欄に【〇〇名】という形で定員数が記載されています。

人数制限科目の履修希望者は、各学期の人数制限科目登録期間にLoyolaでエントリーを行う必要があります。

なお、抽選はコンピュータにより行われ、当選者のみ自動的に履修登録されます。人数制限科目に当選した場合、当選した科目を削除することはできません。ただし、必修科目を除き履修中止期間に履修中止を行う事ができます。

(4) 必修科目のクラス指定、ゼミ

必修科目は指定されたクラスを履修してください。1年次秋学期必修のプレ・ゼミナールとともに、2年次必修のゼミの選択・登録については1年次中に始まりますので掲示等に注意してください。

(5) TOEIC対策講座Ⅰ・Ⅱ(13年次生以降)

2013年度より「TOEIC対策講座Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)が1年次必修科目として開講されました。対象は13年次生以降の学生となります。12年次生以前の学生は履修できません。この科目の履修者は秋学期末(1月)に行われるTOEIC-IP試験を必ず受けなければなりません。

(6) 英語スキルズ科目

原則として各学期に1科目までの履修とします。

(7) 人間学

【13年次生】

「人間学Ⅰ」(2単位)は必修科目です。その他に教養科目の選択科目として教養科目群(人間学Ⅱを含む)から12単位を修得してください。

【12年次生以前】

「人間学Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」は必修です。必修科目の人間学Ⅱを未履修の場合、または不合格であった場合は、2014年度開講されている選択科目から人間学Ⅱを履修してください。これを必修科目扱いとします。

なお、人間学Ⅱを除く教養科目の選択科目として12単位以上を修得してください。

【全学生対象】

Nampet講師担当の「人間学Ⅱ」を履修する場合は、TOEIC 450点以上取得している必要があります。

(8) 教養科目の「体育理論（ウエルネスと身体）」、「体育（球技1）」、「体育（球技2）」、「体育（体操）」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。ただし、同一科目の重複履修はできません。

（例）春学期に「体育（球技1）」の単位を修得済の場合、秋学期の「体育（球技1）」は履修できません（体育理論（ウエルネスと身体）、体育（球技2）、体育（体操）は履修可能）。

【13年次生以前】

13年次以前に開講されていた体育理論・実技1、2、3を修得した学生は、それを含め、体育科目は卒業要件単位として4単位まで算入されますので注意してください。

(9) 外国語科目

基礎科目の「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。同一言語を4単位、または異なる言語をそれぞれ2単位ずつ4単位とすることができます。

(10) 他の科目の履修が前提となる科目

- ・児童英語教育演習A、児童英語教育演習B……履修するには、児童英語教育概論（2011年度まで開講）、児童英語教育概説、児童英語指導者養成講座、第二言語習得のいずれかの単位を修得済であることが必要です。
- ・日本語教育演習……履修するには、日本語教育概論の単位を修得済であることが必要です。
- ・各外国語科目Ⅱ……履修するには、各外国語科目Ⅰの単位を修得済である、もしくはそれに相当する知識が必要です。

(11) 履修希望者が極めて少数の場合、開講を中止する場合があります。

9. 基礎科目／専門科目のコース制度

専門科目は「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育」の4つの領域に分類されています。ある領域を集中してコースとして学ぶことも可能ですし、それぞれの領域から自由に科目を選択して履修することも可能です。

それぞれのコースの基礎科目（異文化理解：キリスト教文化入門または異文化間コミュニケーション、英米文学研究：英文学概論、言語研究：言語学概論、言語教育：児童英語教育概説または日本語教育概論）4単位＋そのコースの関連科目を16単位以上、合計20単位以上修得した場合は、申請に基づき「コース修了証」を発行し、修了コース名を成績証明書に記載します。希望者は、2年次の秋学期の履修登録時に申請を行います（所定用紙）。

（注）2つのコースどちらにでも算入できる科目を修得した場合、それぞれのコースの修了科目として含めることができます。2コース分の修了証が申請可能な場合は、申請書を2枚提出してください。

<各コースの概要>

異文化理解コース	英米文学研究コース	言語研究コース	言語教育コース
さまざまな国の文化や社会、歴史、考え方などについて学びます。	英語圏の文学を通してさまざまな表現手法や思想について学びます。	ことばの仕組みや使い方、バリエーションなどについて学びます。	子どもたちへの英語の教え方や外国籍の方への日本語の教え方を、理論と実践の両面から学びます。

* 次ページに各年次生の各セメスターでの履修例を示します。あくまでも一例ですので、自己の目的や興味関心に従って個人の学習計画を立ててください。なお、開講学期や時間割は年度によって変わります。

* 履修例はあくまでも一例であり、毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【13～14年次生】

＜異文化理解コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	TOEIC対策講座Ⅱ	1	英語スキルズ	2	言語とリテラシー教育	4
TOEIC対策講座Ⅰ	1	英語スキルズ	2	国際関係論	4	文化人類学	4
英語スキルズ	2	教育学	4	日本文化	4	比較政治制度論	4
経済学	4	マスメディア論	4	異文化間コミュニケーション	4	東洋研究	4
基礎コンピューター演習	2	中国語Ⅰ	2				
合計 15 単位		合計 17 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語 5		英語 5		英語 4		英語 2	
教養 8		教養 8		基礎/専門 14		基礎/専門 18	
基礎/専門 2		基礎/専門 4					

2年間 計70単位

＜英米文学研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	TOEIC対策講座Ⅱ	1	英語スキルズ	2	体育(球技Ⅰ)	2
TOEIC対策講座Ⅰ	1	英語スキルズ	2	体育理論(ウエルネスと身体)	2	英語史	4
英語スキルズ	2	基礎コンピューター演習	2	フランス語Ⅰ	2	小説研究	4
宗教学	4	哲学	4	翻訳演習	4	アメリカ文学史	4
歴史学	4	英文学概論	4	映画と文学	4		
合計 17 単位		合計 17 単位		合計 18 単位		合計 18 単位	
英語 5		英語 5		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		教養 2		教養 2	
基礎/専門 2		基礎/専門 6		基礎/専門 12		基礎/専門 14	

2年間 計70単位

＜言語研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	TOEIC対策講座Ⅱ	1	英語スキルズ	2	マスメディア論	4
TOEIC対策講座Ⅰ	1	英語スキルズ	2	音声学	4	第二言語習得	4
英語スキルズ	2	女性と哲学	4	語用論	4	言語とリテラシー教育	4
心理学	4	言語学概論	4	日本語学	4	社会言語学	4
体育理論(ウエルネスと身体)	2	留学準備(オーストラリア)	2				
合計 15 単位		合計 17 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語 5		英語 5		英語 4		英語 2	
教養 8		教養 4		基礎/専門 14		教養 4	
基礎/専門 2		基礎/専門 8				基礎/専門 14	

2年間 計70単位

＜言語教育コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	TOEIC対策講座Ⅱ	1	英語スキルズ	2	児童心理学	4
TOEIC対策講座Ⅰ	1	英語スキルズ	2	教育学	4	第二言語習得	4
英語スキルズ	2	哲学	4	児童英語教育演習A	4	児童英語教育演習B	4
体育(体操)	2	社会福祉入門	4	初等教育	4	バイリンガル教育	4
児童英語教育概説	4	ドイツ語Ⅰ	2				
合計 15 単位		合計 17 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語 5		英語 5		英語 4		英語 2	
教養 4		教養 8		教養 4		基礎/専門 18	
基礎/専門 6		基礎/専門 4		基礎/専門 10			

2年間 計70単位

* 履修例はあくまでも一例であり、毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【10～12年次生】

＜異文化理解コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	日本文化	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	国際関係論	4	文化人類学	4
経済学	4	社会福祉入門	4	倫理学	4	比較政治制度論	4
異文化間コミュニケーション	4	マスメディア論	4	平和と開発	4	ヨーロッパ現代史	4
合計 16 単位		合計 16 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	6	教養	10	基礎/専門	14	基礎/専門	18
基礎/専門	6	基礎/専門	2				

2年間 計70単位

＜英米文学研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	アメリカ文学史	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	体育理論（実技3）	2	英米史	4
教育学	4	体育理論（実技2）	2	フランス語Ⅱ	2	英詩研究	4
歴史学	4	フランス語Ⅰ	2	翻訳演習	4	演劇研究	4
		英文学概論	4	英語史	4		
合計 16 単位		合計 16 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	10	教養	4	教養	2	基礎/専門	18
基礎/専門	2	基礎/専門	8	基礎/専門	12		

2年間 計70単位

＜言語研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	第二言語習得	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	音声学	4	バイリンガル教育	4
言語学概論	4	哲学	4	語用論	4	社会言語学	4
宗教学	4	社会学	4	日本語学	4	英語史	4
		ドイツ語Ⅰ	2				
合計 16 単位		合計 18 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	6	教養	10	基礎/専門	14	基礎/専門	18
基礎/専門	6	基礎/専門	4				

2年間 計72単位

＜言語教育コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	児童心理学	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	体育理論（実技3）	2	第二言語習得	4
心理学	4	教育学	4	児童英語教育演習A	4	児童英語教育演習B	4
日本語表現法	4	児童英語教育概説	4	音声学	4	バイリンガル教育	4
		体育理論（実技1）	2	スペイン語Ⅱ	2		
合計 16 単位		合計 18 単位		合計 18 単位		合計 20 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	6	教養	8	教養	2	基礎/専門	18
基礎/専門	6	基礎/専門	6	基礎/専門	12		

2年間 計72単位

10. サービスラーニングとカリキュラムとの関連

本学の時間割には地域社会における教育支援活動を支援するため、「サービスラーニング枠」が設けられており、学生はその時間を活用して地域社会でのサービスラーニング活動（ボランティア活動）を行うことが奨励されています。さらに、本学カリキュラムの言語教育コースには、日本語教育と児童英語教育の科目群が置かれ、学生はこれらの科目を履修することで、学問的な裏付けを持って活動に臨むことができます。「日本語学」、「日本語教育概論」、「日本語教育演習」などの科目は外国籍市民を対象とした日本語・教科支援ボランティアに参加する学生が日本語教育についての理論的、体系的知識を得ることが出来るものです。また英語教育ボランティアに参加する学生は「児童英語教育概説」、「児童英語教育演習A」、「児童英語教育演習B」、「第二言語習得」、「児童英語指導者養成講座」などの科目を通して英語教育全体の概観と言語習得理論、英語教育の方法論を学ぶことが出来ます。

本学で得られる公的資格として、NPO法人小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）「小学校英語認定指導者資格」の取得が可能です。資格の取得を目指す学生は「児童英語指導者養成講座」の授業の履修に加え、通信講座とワークショップを受講（*費用別途）します。さらに、「児童英語教育演習A」、「児童英語教育演習B」などの授業を履修し、本学の多様な児童英語教育関連のサービスラーニング活動に参加して指導実践の経験を積むことで、在学中に正資格の取得申請へと繋げることが可能です。

「小学校英語指導者資格」「小学校英語準認定指導者資格」を取得するには

1. 「児童英語指導者養成講座」を履修し、単位を修得する。
併せて通信講座「アルク児童英語教師養成コース」を受講。
(受講料：60,000円＋税（税込64,800円）上智大学短期大学部特別価格 2014年4月時点)
期限内に通信課題を提出し、所定の成績基準を満たして通信講座を修了する。
2. J-SHINEまたはアルク主催の「小学校英語指導者資格取得研修講座」に参加する。
(2日間集中、受講料：税込37,000円 2014年4月時点)
3. アルクを通じてJ-SHINE資格認定の申請を行う。
この段階で、指導実践の経験の有無を問わず「小学校英語準認定指導者資格」が取得できる。
4. 上記準認定資格から、さらに正認定資格である「小学校英語指導者資格」の取得を目指す場合、
本学サービスラーニング活動等への参加により、正認定の条件となる幼児および小学生を対象とした50時間の指導実践経験を得ることが可能である。

P.64以降の12. 開講科目表の「サービスラーニング関連度」項目欄には、本学で開講される科目について、サービスラーニングに関連する内容を授業に取り入れている度合いを A（非常に関連している）、B（ある程度関連している）、C（少々関連している）として表示しています。履修の参考にしてください。

11. インデペンデント・スタディ

既設の科目で扱われている内容をより深く理解するため、あるいは学生自身が興味を持っているテーマを選び自ら学ぶため、学生が主体的に指導教員のもとで研究し、研究報告書として成果をまとめ、評価を受けることにより、専門科目として2単位を付与する制度です。

登録を希望する学生は自分の研究テーマに相応しい指導教員（専任教員に限る）を選び、登録前に承諾を受けます。登録は在学中に1回限りとします。研究テーマについては、登録する学期の前の学期中に教員と相談することが望まれます。なお、各学期につき一人の教員が指導する学生は原則2名以内です。

<登録までの手続>

- ① 登録を希望する学期までに研究テーマを決め、指導教員を決定します。
- ② 「研究計画書」を作成し、指導教員へ提出します。指導教員は教務委員長、学科長とともにその計画書を審査します。
*研究テーマは指導教員と相談の上決定します。
- ③ 指導教員と教務委員長及び学科長の許可を受けた上で、春学期あるいは秋学期の履修登録期間に登録を行います。

<履修～評価>

- ① 学生は登録した学期の期間中、定期的に担当教員に対し進捗状況を報告し、指導を受けてください。
- ② 学生は登録した学期末までに「研究報告書」を担当教員に提出してください。最終的な研究報告書は十分な研究調査に基づいた論文の体裁をとっている必要があります。各学期末（春学期登録者は7月、秋学期登録者は1月）に開催される「公開研究発表会」で研究成果を教員・学生の前で発表した上で、評価されます。
- ③ 履修を中止する場合は、登録した学期の履修中止期間内に行ってください。

12. 開講科目表

英語科目

		単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1, 2限連続		関連度 ※サイバースライディング	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
ナンバリング	授業科目名	必修	選必	選択	春学期	秋学期		履修年次	担当者	備考
英語必修科目							VI. 講義内容（シラバス）→ P. 79～P. 189			
ENG101	英語 I	2			◎		C	1年次	M. Andrade、近藤、飯田、永野、T. Gould、C. Oliver、狩野、岩崎、V. Thomas	クラス指定
ENG102	英語 II	2				◎	C	1年次	平野、近藤、飯田、永野、神谷、T. Gould、C. Oliver、深澤、高橋、柳田	クラス指定
ENG201	英語 III	2			◎		C	2年次	R. Burton、J. Dizon、深澤、G. Fredes、J. Hirai、M. Nepomuceno、S. Tandon、K. Williams	クラス指定
ENG202	英語 IV	2				◎	C	2年次	秋庭、R. Burton、J. Dizon、深澤、G. Fredes、J. Hirai、M. Nepomuceno、高橋、S. Tandon	クラス指定
ENG111	TOEIC対策講座 I	1			○			1年次	M. Andrade、永野、T. Gould、深澤	クラス指定
ENG112	TOEIC対策講座 II	1				○		1年次	M. Andrade、神谷、T. Gould、C. Oliver、深澤	クラス指定

		単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1, 2限連続		サ ー ビ ス ス ラ ー ニ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
ナンバリング	授業科目名	必修	選択	選択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
英語スキルズ科目							VI. 講義内容（シラバス）→ P. 190～P. 239			
ENG121	基礎英語スキルズ (生活の英語)		2			◎	C	1・2 年次	柳田	[人]35名
ENG122	基礎英語スキルズ (ライティング)		2		◎			1・2 年次	石原	[人]35名
ENG123	基礎英語スキルズ (リーディング)		2		◎	◎		1・2 年次	(春)深澤 (秋)石原	[人]各60名
ENG120	基礎英語スキルズ (文法・語彙)		2		◎			1・2 年次	石原	[人]60名
ENG154	標準英語スキルズ (生活の英語)		2			◎		1・2 年次	S. Tandon	[人]35名
ENG155	標準英語スキルズ (旅行の英語)		2			◎		1・2 年次	K. Williams	[人]35名
ENG150	標準英語スキルズ (職場の英語)		2		◎	◎		1・2 年次	(春)J. Hirai (秋)K. Williams	[人]各35名
ENG160	標準英語スキルズ (メディアの英語)		2			◎	C	1・2 年次	J. Hirai	[人]60名
ENG152	標準英語スキルズ (文法・語彙)		2		◎	◎		1・2 年次	秋庭	[人]各60名
ENG153	標準英語スキルズ (ライティング)		2		◎	◎		1・2 年次	(春)S. Tandon (秋)J. Dizon	[人]各35名
ENG151	標準英語スキルズ (リーディング)		2		◎	◎	C	1・2 年次	(春)柳田 (秋)石原	[人]各60名
ENG159	標準英語スキルズ (パブリックスピーキング)		2		◎			1・2 年次	J. Dizon	[人]35名
ENG158	標準英語スキルズ (ディスカッション)		2		◎		B	1・2 年次	M. Nepomuceno	[人]35名
ENG156	標準英語スキルズ (アカデミックリスニング)		2		◎		C	1・2 年次	秋庭	[人]60名
ENG157	標準英語スキルズ (TOEIC実践演習講座)		2		●			1・2 年次	柳田	[人]35名
ENG220	上級英語スキルズ (ライティング)		2			◎	C	1・2 年次	M. Nepomuceno	[人]35名
ENG221	上級英語スキルズ (ディベート)		2			◎		1・2 年次	R. Burton	[人]35名
ENG223	上級英語スキルズ (学術論文作法)		2		◎			1・2 年次	G. Fredes	[人]35名
ENG224	上級英語スキルズ (多読速読)		2		◎			1・2 年次	高橋	[人]60名
ENG225	上級英語スキルズ (編入対策)		2		◎			1・2 年次	平野	[人]60名
ENG222	上級英語スキルズ (TOEIC実践演習講座)		2		●			2年 次	R. Burton	[人]35名

教養科目

		単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1, 2限連続		サ ー ビ ス ラ イ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
ナンバリング	授業科目名	必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
必修科目								VI. 講義内容（シラバス）→ P. 240～P. 255		
SCH100	人間学Ⅰ	2			○		A	1年次	丹木、小林、岩崎、 海老原、桑原、 W. Nampet、田村	クラス指定
選択科目								VI. 講義内容（シラバス）→ P. 256～P. 303		
SCH101	人間学Ⅱ			2	○	○	A	1・2年次	小林、岩崎、 W. Nampet、田村	12年次生以前は必修 春開講分については2 年次生のみ受講可 8. 履修上の注意参照
HST200	歴史学			4	◎			1・2年次	森下	
PHL200	哲学			4	◎	◎	B	1・2年次	丹木	
PHL202	女性と哲学			4		◎	B	1・2年次	田内	
REL200	宗教学			4	◎		B	1・2年次	小林	
MUS200	音楽			4		◎		1・2年次	北村	
SOC200	社会学			4	◎	◎	B	1・2年次	栃内	
LAW210	日本国憲法			4	◎		A	1・2年次	萩原	
LAW200	法学			4		◎	A	1・2年次	萩原	
EDU200	教育学			4	◎	◎	B	1・2年次	(春)杉村 (秋)栗原	
ECN200	経済学			4	◎			1・2年次	白瀬	
BUS200	経営学			4		◎		1・2年次	白瀬	
SWF200	社会福祉入門			4		◎	A	1・2年次	森澤	
JRN201	マスメディア論			4	◎	◎	B	1・2年次	国枝	
COM101	基礎コンピューター演習			2	○	○		1・2年次	加藤	[人]各36名
MTH200	数学			4		◎		1・2年次	加藤	
PSY200	心理学			4	◎		B	1・2年次	担当者未定	
PED100	体育理論 (ウェルネスと身体)			2	○	○	B	1・2年次	木戸	
PED110	体育（球技1）			1	○	○	B	1・2年次	木戸	[人]各36名
PED111	体育（球技2）			1	○	○	B	1・2年次	原川	[人]各36名
PED112	体育（体操）			1	○	○	B	1・2年次	原川	[人]各36名

基礎科目

		単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1, 2限連続		サ ー ビ ス ラ イ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
ナンバリング	授業科目名	必修	選択	選択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
異文化理解コース関連科目（基礎科目）								各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい VI. 講義内容（シラバス）→ P. 304～P. 307		
REL210	キリスト教文化入門			4		◎	B	1・2 年次	輪講(コーディネーター：丹木)	
IDS210	異文化間コミュニケーション			4	◎		C	1・2 年次	C. Oliver	*言語研究コースにも算入可
英米文学研究コース関連科目（基礎科目）								各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい VI. 講義内容（シラバス）→ P. 308～P. 311		
LIT201	英文学概論			4	◎	◎		1・2 年次	(春)飯田 (秋)平野	
言語研究コース関連科目（基礎科目）								各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい VI. 講義内容（シラバス）→ P. 312～P. 315		
LNG200	言語学概論			4	◎	◎	C	1・2 年次	(春)柳田 (秋)神谷	
言語教育コース関連科目（基礎科目）								各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい VI. 講義内容（シラバス）→ P. 316～P. 319		
EDU205	児童英語教育概説			4	◎		B	1・2 年次	狩野	
JPN210	日本語教育概論			4		◎	A	1・2 年次	宮崎	
VI. 講義内容（シラバス）→ P. 320～P. 343										
GMN101	ドイツ語 I			2	◎	◎		1・2 年次	工藤	[人]各35名
GMN102	ドイツ語 II			2	◎			1・2 年次	工藤	[人]35名、ドイツ語 I 既習者か、それに相当する者
FRN101	フランス語 I			2	◎	◎	C	1・2 年次	谷口	[人]各35名
FRN102	フランス語 II			2	◎		C	1・2 年次	谷口	[人]35名、フランス語 I 既習者か、それに相当する者
SPN101	スペイン語 I			2	◎	◎		1・2 年次	山本 浩史	[人]各35名
SPN102	スペイン語 II			2	◎			1・2 年次	山本 浩史	[人]35名、スペイン語 I 既習者か、それに相当する者
CHN101	中国語 I			2	◎	◎	C	1・2 年次	廣重	[人]各35名
CHN102	中国語 II			2	◎		C	1・2 年次	廣重	[人]35名、中国語 I 既習者か、それに相当する者
JPN250	日本語表現法			4	◎	◎		1・2 年次	河北	[人]各35名
SEF200	キャリア・プランニング			4		◎	B	1・2 年次	輪講(コーディネーター：岩崎)	同窓会寄附講座
ENG250	留学準備 (イギリス)			2	◎		B	1・2 年次	岩崎	夏の短期語学講座 (Univ. of Gloucestershire) 申込者のみ
ENG251	留学準備 (オーストラリア)			2		◎	B	1・2 年次	狩野	春の短期語学講座 (Bond University) 申込者のみ

専門科目

		単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1, 2限連続		サ ー ビ ス ラ イ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
ナンバリング	授業科目名	必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
必修科目										
VI. 講義内容（シラバス）→ P. 344～P. 419										
SES100	基礎ゼミナール	2			○		B	1年次	平野、近藤、飯田、森下、宮崎、杉村、小林、岩崎	
SES150	プレ・ゼミナール	2				○	丹木：B 近藤：C 飯田：B 永野：B T. Gould：B 宮崎：B C. Oliver：C 岩崎：A	1年次	平野、丹木、近藤、飯田、森下、永野、神谷、T. Gould、宮崎、C. Oliver、岩崎	原則として2年次にゼミⅠ・Ⅱ担当教員と同一教員担当科目を履修。但し、教員のサバティカルにより同一教員が履修できない場合がある。詳細は6月のゼミナール説明会で説明。
SES200	ゼミナールⅠ	2			○		M. Andrade：C 丹木：B 近藤：C 飯田：B T. Gould：B 宮崎：B C. Oliver：C 杉村：B 狩野：A 岩崎：B	2年次	M. Andrade、平野、丹木、近藤、飯田、森下、永野、T. Gould、宮崎、C. Oliver、杉村、狩野、岩崎	原則として、ゼミⅠとゼミⅡは同一教員担当科目を履修。
SES300	ゼミナールⅡ	2				○	M. Andrade：C 丹木：B 近藤：C 飯田：B T. Gould：B 宮崎：B C. Oliver：C 杉村：C 狩野：A 岩崎：B			

専門科目（続き）

		単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1, 2限連続		サ ー ビ ス ラ イ ン グ 関 連 度 ※	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
ナンバリング	授業科目名	必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
異文化理解コース関連科目								VI. 講義内容（シラバス）→ P. 420～P. 441		
HST310	東洋研究			4	◎			1・2 年次	田中	
HST302	西洋研究			4		◎		1・2 年次	森下	【隔年開講】
JPN311	日本文化			4		◎		1・2 年次	森下	
HST301	英米史			4					2014年度休講	【隔年開講】
HST300	比較社会史			4	◎			1・2 年次	森下	
INT301	国際関係論			4	◎		A	1・2 年次	西脇	
ANT200	文化人類学			4		◎	C	1・2 年次	C. Oliver	
ART200	現代美術			4		◎	C	1・2 年次	G. Fredde	
EDU302	比較・国際教育学			4	◎		B	1・2 年次	杉村	*言語教育・児童英語教育コースにも算入可
EDU321	社会正義のグローバルリテラシー			4		◎	B	1・2 年次	M. Andrade	【隔年開講】 注1
EDU320	言語とリテラシー教育			4					2014年度休講	
POL301	比較政治制度論			4					2014年度休講	【隔年開講】
PHL210	倫理学			4	◎		A	1・2 年次	丹木	
SOC301	平和と開発			4	◎		B	1・2 年次	V. Thomas	
英米文学研究コース関連科目							VI. 講義内容（シラバス）→ P. 442～P. 449			
LIT323	イギリスの文化と文学			4	◎		C	1・2 年次	山本 浩	
LIT310	英詩研究			4					2014年度休講	【隔年開講】
LIT320	演劇研究			4		◎		1・2 年次	飯田	【隔年開講】
LIT321	小説研究			4		◎		1・2 年次	永野	【隔年開講】
LIT301	アメリカ文学史			4					2014年度休講	【隔年開講】
LIT322	映画と文学			4					2014年度休講	
ENG350	翻訳演習			4	◎			1・2 年次	永野	
ENG360	（英語史）			4	◎			1・2 年次	平野	
言語研究コース関連科目							VI. 講義内容（シラバス）→ P. 450～P. 455			
LNG310	社会言語学			4					休講	
LNG305	音声学			4	◎		A	1・2 年次	高橋	*言語教育・児童英語教育コースにも算入可
LNG320	日本語学			4	◎		C	1・2 年次	宮崎	*言語教育コースにも算入可

注1 専門科目4単位として算入する方法と英語選択必修科目4単位として算入する方法があります P.46参照

専門科目（続き）

		単位			開講期・授業回数 ◎＝週2 ○＝週1 ●＝週1, 2限連続		サ ー ビ ス ラ イ ン グ ※ 関 連 度	※A 非常に、B ある程度、C 少々		
ナンバリング	授業科目名	必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
LNG302	語用論			4					2014年度休講	【隔年開講】
ENG360	英語史			4	◎		C	1・2 年次	平野	*英米文学研究 コースにも算入可
ENG300	通訳演習			4					2014年度休講	【隔年開講】
IDS210	(異文化間コミュニケー ション)			4	◎			1・2 年次	C. Oliver	
EDU320	(言語とリテラシー教育)			4					2014年度休講	【隔年開講】
LNG320	(バイリンガル教育)			4		◎		1・2 年次	宮崎	
LNG325	(第二言語習得)			4		◎		1・2 年次	T. Gould	
言語教育コース関連科目										
VI. 講義内容（シラバス）→ P. 456～P. 469										
LNG320	バイリンガル教育			4		◎	C	1・2 年次	宮崎	*言語研究コー スにも算入可
EDU310	初等教育			4		◎	B	1・2 年次	杉村	
PSY301	発達心理学			4		◎	B	1・2 年次	担当者未定	
LNG325	第二言語習得			4		◎	B	1・2 年次	T. Gould	*言語研究コー スにも算入可
EDU300	児童英語教育演習 A			4	◎		A	1・2 年次	狩野	*児童英語教育 概論（2011年度 まで開講）、児童 英語教育概説、 児童英語指導者 養成講座、第二 言語習得のいづ れかの単位習得 済が履修の条件
EDU301	児童英語教育演習 B			4		◎	A	1・2 年次	狩野	*児童英語教育 概論（2011年度 まで開講）、児童 英語教育概説、 児童英語指導者 養成講座、第二 言語習得のいづ れかの単位習得 済が履修の条件
EDU206	児童英語指導者養成講座			4		◎	A	1・2 年次	杉村	
JPN300	日本語教育演習			4	◎		A	1・2 年次	宮崎	日本語教育概論 の単位修得済が 履修の条件。
EDU302	(比較・国際教育学)			4	◎			1・2 年次	杉村	
LNG305	(音声学)			4	◎			1・2 年次	高橋	
LNG320	(日本語学)			4	◎			1・2 年次	宮崎	
その他										
SES399	インデペンデント・ スタディ			2				1・2 年次	担当教員	詳細はP. 62参照
ENG260	海外短期語学講座			2				1・2 年次	短期留学制度	詳細はP. 45参照

13. 上智大学短期大学部英語科ディプロマポリシー（学位授与の方針）との関連性

「上智大学短期大学部英語科ディプロマポリシー」（学位授与の方針）で明示している具体的に獲得しなければならない能力と、各科目との関連性が最も高いものが記されています。

それぞれの科目を受講することで、どのような学修成果を得られるかが把握できるようにしています。

- (1) キリスト教ヒューマンイズムの精神に共鳴し自ら実践できること
(具体的には、キリスト教の倫理や哲学の考え方を学び、「他者のために、他者とともに」の他者愛の精神に共感してそれを実践できることです。)
- (2) 地球市民としての人格が形成されていること
(具体的には、国際社会の構成員として、世界の様々な出来事に関心を持ち、自分の意見を持つことができることです。)
- (3) 幅広い専門知識を探究する術と意欲を備え実践すること
(具体的には、各分野の学びを深め、そこから学際的な学びを探究する意欲を持ち、継続的・系統的に知識を探究することができることです。)
- (4) 英語を実践的に運用し、他者とのコミュニケーションができること
(具体的には、英語を運用するために英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を身につけることに加えて、母語や他の外国語の言語力も磨き、自己の考えを発信して豊かな人間関係を築けるようになることです。)
- (5) 英語圏と日本の文化を比較検証し、多様性から価値を見いだすことができること
(具体的には、英米に限らず広い意味での英語圏の歴史や文化を学び、英語圏の国々と日本との関係を理解することができること、異文化理解により広い文化的な視野を持ち、世界をよりよくするためにはどうすればよいのか考えられるようになることです。)
- (6) 国際的な視点で社会を理解するとともに、様々な背景を持つ人や社会との相互理解の担い手となることができること
(具体的には、世界のさまざまなことがらをグローバルな視点から、また、多角的な視点から考察して理解できること、自分たちと異なる他者を理解すること、このような知見を通して多文化共生社会の実現に貢献できるようにすることです。)

科目名	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
英語Ⅰ		○		◎		○
英語Ⅱ		○		◎	○	○
英語Ⅲ		○		◎		○
英語Ⅳ		○		◎	○	
TOEIC対策講座Ⅰ				◎	○	
TOEIC対策講座Ⅱ				◎	○	
基礎英語スキルズ（生活の英語）				◎		
基礎英語スキルズ（ライティング）				◎		
基礎英語スキルズ（リーディング）				◎		
基礎英語スキルズ（文法・語彙）				◎		
標準英語スキルズ（生活の英語）				◎		
標準英語スキルズ（旅行の英語）				◎	○	
標準英語スキルズ（職場の英語）				◎		
標準英語スキルズ（メディアの英語）				◎	○	
標準英語スキルズ（文法・語彙）				◎		
標準英語スキルズ（ライティング）				◎		
標準英語スキルズ（リーディング）				◎		
標準英語スキルズ（パブリックスピーキング）				◎		
標準英語スキルズ（ディスカッション）				◎		
標準英語スキルズ（TOEIC実践演習講座）				◎	○	
標準英語スキルズ（アカデミックリスニング）				◎		
上級英語スキルズ（ライティング）				◎		
上級英語スキルズ（ディベート）				◎		
上級英語スキルズ（学術論文作法）				◎		
上級英語スキルズ（多読速読）				◎		
上級英語スキルズ（編入対策）				◎		
上級英語スキルズ（TOEIC実践演習講座）				◎	○	
人間学Ⅰ	◎	○	○		○	○
人間学Ⅱ	○	◎	○		○	○
人間学Ⅰ（S）	◎	○	○	○	○	○
人間学Ⅱ（S）	○	◎	○	○	○	○
歴史学		○	◎			○
哲学	○	○	◎			○
女性と哲学	○	○	◎			○
宗教学	○	○	◎			
音楽			◎		○	
社会学		○	◎			○
日本国憲法		○	◎			○
法学		○	◎			
教育学		○	◎		○	○
経済学		○	◎			
経営学		○	◎			
社会福祉入門	○	○	◎			○
マスメディア論		○	◎			○
基礎コンピュータ演習			◎			
数学			◎			
心理学			◎		○	
体育理論（ウエルネスと身体）			◎			
体育			◎			
キリスト教文化入門	○	○	○		◎	
異文化間コミュニケーション		○	○	○	◎	○
英文学概論			◎			○
言語学概論		○	◎	○	○	
児童英語教育概説		○	○	◎	○	
日本語教育概論		○	○	○		◎
ドイツ語			○	◎		
フランス語			○	◎		
スペイン語			○	◎		
中国語			○	◎		
日本語表現法		○	○	◎		
キャリアプランニング	○	◎				
留学準備					◎	○

科目名	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
基礎ゼミナール		○		◎		
ゼミナールⅠ (Andrade)		○	○	◎	○	○
ゼミナールⅡ (Andrade)		○	○	◎	○	○
プレゼミナール(平野)		○		◎	○	
ゼミナールⅠ(平野)		○	◎	○	○	
ゼミナールⅡ(平野)		○	◎	○	○	
プレゼミナール(丹木)	○	○	◎		○	
ゼミナールⅠ(丹木)	○	○	◎		○	
ゼミナールⅡ(丹木)	○	○	◎		○	
プレゼミナール(近藤)	○	○	○	○	◎	
ゼミナールⅠ(近藤)	○	○	○	○	◎	
ゼミナールⅡ(近藤)	○	○	○	○	◎	
プレゼミナール(飯田)		○	◎		○	
ゼミナールⅠ(飯田)		○	◎		○	
ゼミナールⅡ(飯田)		○	◎		○	
プレゼミナール(森下)		○	◎			
ゼミナールⅠ(森下)		○	◎			
ゼミナールⅡ(森下)		○	◎			
プレゼミナール(永野)			◎	○	○	
ゼミナールⅠ(永野)			◎	○	○	
ゼミナールⅡ(永野)			◎	○	○	
プレゼミナール(神谷)			◎	○	○	○
プレゼミナール(Gould)		○	◎	○	○	○
ゼミナールⅠ(Gould)		○	◎	○	○	○
ゼミナールⅡ(Gould)		○	◎	○	○	○
プレゼミナール(杉村)		○	○	○	○	◎
ゼミナールⅠ(杉村)		○	○	○	○	◎
ゼミナールⅡ(杉村)		○	○	○	○	◎
プレゼミナール(狩野)		○	◎	○	○	○
ゼミナールⅠ(狩野)		○	◎	○	○	○
ゼミナールⅡ(狩野)		○	◎	○	○	○
プレゼミナール(小林)	◎	○	○		○	○
プレゼミナール(岩崎)	○	◎		○		○
ゼミナールⅠ(岩崎)	○	◎		○		○
ゼミナールⅡ(岩崎)	○	◎		○		○
プレゼミナール(Thomas)	○	○	○	○	○	◎
プレゼミナール(宮崎)		○	○	○		◎
ゼミナールⅠ(宮崎)		○	○			◎
ゼミナールⅡ(宮崎)		○	○			◎
プレゼミナール(Oliver)			○	○	○	◎
ゼミナールⅠ(Oliver)			○	○	○	◎
ゼミナールⅡ(Oliver)			○	○	○	◎
東洋研究			◎			
西洋研究		○	◎		○	
日本文化			◎		○	
比較社会史		○	◎			○
国際関係論		○	◎			○
文化人類学		○	◎	○	○	
現代美術			◎		○	
比較・国際教育学		○	◎		○	○
社会正義のグローバルリテラシー			◎			
倫理学		○	◎		○	
平和と開発	○	○	◎	○		
イギリスの文化と文学					◎	
演劇研究			◎		○	
小説研究		○	◎	○	○	○
翻訳演習			◎	○	○	○
音声学			◎	○		
日本語学		○	◎	○		○
英語史		○	◎	○		○
バイリンガル教育		○	◎			○
初等教育			◎		○	○
発達心理学			◎			
第二言語習得			◎	○		
児童英語教育演習A		○	◎	○	○	
児童英語教育演習B		○	◎	○	○	
児童英語指導者養成講座		○	◎	○	○	
日本語教育演習			○	○		◎

14. シラバス各項目について

科目名	①					担当教員	②
開講期	③	開講時限	④	研究室	⑤	オフィスアワー	⑥
分類	⑦	単位	⑧	標準受講年次	⑨	連絡先	⑩
キーワード	⑪						
授業の概要	⑫						
達成目標および到達目標	⑬						
評価方法および評価基準	⑭						
学位授与の方針との関連性	⑮						

授業計画		
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法 準備学習・復習
⑯		

テキスト	⑰
参考書	⑱
履修条件、前提科目	⑲
その他 特記事項	⑳

主な項目の説明について、以下のとおりとなります。

① 科目名	科目名称が記されています。また、アルファベット3文字+3桁の半角数字で表しているナンバリングはその科目の分野、レベルを表しています。ナンバリングの詳細についてはP.57を参照してください。
② 担当教員	当該科目を担当する教員名が記されています。
③ 開講期	開講する学期が記されています。
④ 開講時限	開講する曜日時限が記されています。
⑤ 研究室	教員の研究室が記されています。
⑥ オフィスアワー	(専任教員のみ) 質問、相談の時間として設けられている時間が記されています。
⑦ 分類	当該科目の区分が記されています。
⑧ 単位	当該科目の単位数が記されています。
⑨ 標準受講年次	原則として受講可能な年次が記されています。
⑩ 連絡先	担当教員の連絡先が記されています。
⑪ キーワード	この授業で扱う主なテーマやトピックが記されています。

⑫ 授業の概要
当該授業の概要、学習活動の内容、特徴が記されています。
⑬ 達成目標および到達目標
達成目標 なぜこの科目を学ぶのかという目的、教育的価値が記されています。
到達目標 この科目を履修することで、学生がどのようなことを学び、どのようなことができるようになるかが具体的に記されています。ここで書かれる目標は、評価基準と関連しています。
⑭ 評価方法および評価基準
評価方法 評価に用いる評価項目とその比率が記されています。
評価基準 各評価項目について、どのような基準や観点で評価を行うかが記されています。
⑮ 学位授与の方針との関連性
当該科目と本学の6つの学位授与方針との関連性が記されています。 「上智大学短期大学部英語科ディプロマポリシー」（学位授与の方針）で明示している、具体的に獲得しなければならない能力のうち、各科目との関連性が最も高いものが記されています。
⑯ 授業計画
各授業における授業計画が記されています。
テーマおよび学習内容 各回の授業のテーマと具体的な学習内容が記されています。
運営方法、教育手法 各回の授業の主な運営方法や教育手法、学習活動が記されています。
準備学習・復習 授業外で行う必要のある準備学習、復習の内容と範囲が記されています。
⑰ テキスト
主に授業で使用する教科書が記されています。
⑱ 参考書
科目テーマの理解を補助し、発展的な自己学修につなげるために是非読んでいただきたい専門書等が紹介されています。
⑲ 履修条件、前提科目
この科目を履修するにあたっての条件、または科目を履修する前に単位を修得しなければならない科目がある場合は、その科目が記されています。
⑳ その他特記事項
上記項目以外の特記事項が記されています。